

平成30年度第1回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成30年5月7日(月)15:00～17:00

2 場 所 ハピネスふくちやま会議室1(3階)

3 出席者

| | |
|------|--------------------------------|
| 委員 | 青山委員、大久保委員、菊田委員、中井委員、細見委員 |
| 福知山市 | 大橋市長(開会挨拶)、渡辺室長、大橋次長、大槻主査、中田囑託 |

4 会議概要

| | 議題・報告事項 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 委員長等の選出 | 互選により青山公三委員が委員長に、委員長指名により大久保正明委員が職務代理に選出。 |
| 2 | 【議題】 公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針等の改正について | 【資料1～5】 により説明。 ⇒改正について全委員了承 |
| 3 | 【報告事項】 ① 平成30年度評価委員会のスケジュールについて ② 平成29・30年度公立大学法人福知山公立大学年度計画について | 【資料6～9】【参考1】【参考2】 により報告。 |
| 4 | 意見交換・質疑等 | (主な意見) 【議題】 ■地方独立行政法人法上は、財務諸表の承認にあたってあらかじめ評価委員会に意見を聴取する義務はなくなったが、法人が健全な大学運営を行っているかを評価委員会として適正に見極めるためにも、法人運営の健全化に資する必要な情報は適宜報告いただきたい。 ■財務諸表に関する意見は議事録に残していただきたい。 【報告事項1】 ■昨年の評価委員会において、できるだけ評価しやすい業務実績報告書の作成を福知山公立大学に申し入れている。計画の実施状況欄に成果を感じ |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>ることができるような具体的な記述をお願いしたい。</p> <p>■アウトカム（成果）がないと評価は満点にならない。数値目標、数値実績、アウトカムの3点を法人には意識して取り組んでいただきたい。</p> <p>【報告事項2】</p> <p>■平成30年度年度計画に新学部構想が唐突に出てきているが、中期目標、中期計画を変更する必要があるのではないか。</p> <p>■評価委員会という立場ではあるが、新学部設置は大学運営に関わってくる重要な問題であるため、随時情報提供いただきたい。</p> |
|--|--|---|

5 議題・報告事項（■は委員 ⇒は市回答）

【議題】

公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針等の改正について

（市）【資料1～5】により、平成29年度の地方独立行政法人法改正に伴う業務実績評価のPDCAマネジメント・サイクルの変更点を説明のうえ、平成29年度第1回評価委員会において承認いただいた以下の評価方針等の変更点について説明。

- ① 公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針
- ② 公立大学法人福知山公立大学に関する年度評価実施要領
- ③ 公立大学法人福知山公立大学財務諸表の承認手続きについて
- ④ 公立大学法人福知山公立大学の利益処分に関する基本的な考え方

- 地方独立行政法人法上は、財務諸表の承認にあたってあらかじめ評価委員会に意見を聴取する義務はなくなったが、法人が健全な大学運営を行っているかを評価委員会として適正に見極めるためにも、法人運営の健全化に資する必要な情報は適宜報告いただきたい。
- 今般の評価方針等の改正は地方独立行政法人法の改正に基づいたものなので特段意見はない。業務実績評価にあたって評価委員会としてより適正な判断を行えるようにしたい。
- 財務諸表の承認に当たって評価委員会への意見聴取義務が廃止されたことに伴い、評価委員会の権限が弱まってしまったように感じる。市民にとって福知山公立大学の財政状況は最も関心の高い事項である。京都創成大学時代、福知山市関係者が理事に就任していたにもかかわらず、いつのまにか財政破綻状態に陥ってしまったよ

うに、評価委員会のガバナンスが弱まることにより、財政状況の悪化につながらないか心配である。

⇒ 今般の法改正の1つの特徴として、監事の権限が強化されたことが挙げられる。監事には監査報告の作成、福知山公立大学が市に提出する書類のチェックといった役割が付されたとともに、任期についても設立団体の長による財務諸表承認日まで延長されるなど、責任と義務が大きく強化された。これにより、本市が任命している2名の監事によって、大学へのガバナンスが働くことにより、これまで以上に厳正な監査を行うことが可能となる。

本市としても福知山公立大学の健全な大学運営の確立に向けて、大学と緊密な連携をとりつつ、適正な事務執行がされているかチェックしていきたい。

■市の説明を聞いて安心した。福知山公立大学の役員でもある監事による福知山公立大学への適正なガバナンスを期待する。

■今般の法改正により、財務諸表の承認に当たっての評価委員会の権限はなくなったが、業務実績評価を行う中で財務状況についても引き続き厳正に評価していかなければならない。

⇒ 業務実績報告書の項目に財務諸表に関連する財務に関する項目も含まれているので、業務実績評価において適正に評価いただきたい。

■業務実績評価と財務諸表の承認は密接不可分の関係にある。この点を鑑みられた結果、福知山市においてはあらかじめ評価委員会に財務諸表を報告するという手続きをとりたいという提案であり、我々も少し安心している。市民の目線で適正に評価していきたい。また、我々の意見を議事録にも残していただきたい。

⇒ 承知しました。

(青山委員長)

それでは議題については了承ということでよいか。

(全委員)

異議なし。

【報告事項1】平成30年度評価委員会のスケジュールについて

(市)【資料6】により報告。

(全委員)

承知した。

【報告事項2】平成29・30年度公立大学法人福知山公立大学年次計画について

(市)【資料6～9】【参考1】【参考2】により報告。

○年度計画について

■平成29年度年度計画については、平成28年度中に福知山市に届出がなされていたため、平成30年度年度計画から、評価委員会の業務実績評価を踏まえた年度計

画となっている。

- 昨年の評価委員会において、できるだけ評価しやすい業務実績報告書の作成を福知山公立大学に申し入れている。計画の実施状況欄に成果を感じることができるような具体的な記述をお願いしたい。

⇒ 昨年の評価委員会の意見を福知山公立大学に通知し、できるだけ評価いただきやすい実績報告書を作成するようお願いしている。

- 例えば、公開講座を50回開催するという目標に対し50回開催したから評価が満点になるというものではない。アウトカム(成果)がないと評価は満点にならない。数値目標、数値実績、アウトカムの3点を法人には意識して取り組んでいただきたい。

○新学部について

- 【資料8】平成30年度年度計画に新学部構想が唐突に出てきているが、中期目標、中期計画にも記載しないといけないのではないかと。【資料8】中期目標3頁の「第3 教育研究上の基本組織」に、「中期目標期間中において、基本構想及び地域社会のニーズや社会情勢等を踏まえ、学部学科編成の最適化及び早期に入学定員200名の実現を目指すものとする。」と記載されているので、新学部構想は広い意味では当該記述に包含されているのかもしれないが、議会が承認しないままに新学部設置に向けて準備が進んでいるということになってはいけません。また、新学部設置は、福知山公立大学における学生募集、教員の確保、ひいては大学の存続にも関わる重要な問題でもあるため、中期目標、中期計画の変更が必要なのではないかと。

⇒ 御指摘いただいた点は大きなポイントだと考えている。現在、新学部設置準備委員会において新学部設置に向けて検討を進めているが、どこかのタイミングで中期目標、中期計画の変更を行わなければならないことは認識している。大学と協議して、適切に対応していきたい。

なお、新学部設置については、「知の拠点」整備構想策定にあたって議会で報告済みであり、また、新学部設置にあたっての平成30年度当初予算についても承認をいただいている。

- 情報系学部は現在のトレンドであることはわかるが、コンピュータ関係の設備投資に費用がかかる。いずれ情報系学部も飽和状態になる時期が来るかもしれない。開学してまだ3年目であるにもかかわらず情報系学部を作る理由・背景を教えてください。

⇒ 「知の拠点」整備構想により経過概要を説明。

- 現在、設置審はなかなかハードルが高い。他大学であれば2～3年かけて準備することを1年でできるのか心配である。

⇒ タイムなスケジュールであることは認識しているが、しっかりと取り組んでいきたい。

- 評価委員会には新学部設置について意見する権限はないので、新学部設置準備委員会でしっかりと議論していただきたいが、参考までに情報系学部について情報提供させていただきたい。

内閣府による未来投資会議の議論において、今後の社会にはIT人材がなくては

ならない存在になると提唱されており、今後、AI、IoTといった情報が重要になるのはそのとおりではあるが、あくまでも人間が主体でなければならないと考える。

前回の情報革命時(2000年頃)において、多くの大学で情報系学部が開設された。その第2段として、現在、情報系学部の新設が増えてきている。この第2段は、情報と何かを組み合わせる必要があると考える。例えば、情報と介護の組み合わせであれば、介護をする人が情報を理解していなければならない。単体でプログラムを作れる人材の育成だけでは時代遅れであり、そうしたものはAIに任せればいい。これからの時代は、人間が主体で考え、情報と何かを組み合わせる文理融合のプログラムが求められる。単に情報教育を充実させた学部であると時代に乗り遅れると思う。

かつての「情報学部情報学科」ではなく、新しい時代の情報系学部を想起させる学部名であってほしい。そして、地元の企業のニーズを満たす学部内容となるよう議論を進めていただきたい

- 情報系学部設置の背景や理念は理解するが、財政面がとても心配である。いくら一人当たりの地方交付税が増えても設備投資に多額の費用がかかってしまえば財政運営が厳しくなる。採算を合わせるように企画を練ってほしい。
 - 評価委員会という立場ではあるが、新学部設置は大学運営に関わってくる重要な問題であるため、随時情報提供いただきたい。
 - 情報系学部はこれから増えていくことになる。そのため、他大学との差別化を図るためにも、学部をどのように魅力的にしていくかが重要であり、結局は地道な努力が求められることになる。十分な人数が揃っているとはいえない事務局体制の中で、新学部を創るのはリスクがあるのではないか。新学部のことだけでなく既存学部を継続的に改善していく努力を積み重ねていただきたい。
 - 平成32年度に新学部を開設ということは現在の高校2年生から対象ということになる。認可を受けるまで周知方法に注意は必要だが、地元の高校には新学部開設の趣旨をしっかりと伝えたいと学生募集活動をしっかりやっていただきたい。「新学部設置構想中」としながら学生募集活動するという方法も考えられる。綿密な学生募集計画をたてていただきたい。
- ⇒ 新学部の設置に向けての状況については、随時情報提供させていただく。学生募集活動についても、市長による校長会トップセールスを行うとともに、昨年までと同様に市も高校訪問をしていく所存である。

6 その他

○2018年度福知山公立大学入試状況について

- 志願者に全国的な広がりがあるのは素晴らしい。

交流人口だけでなく関係人口を増やしていく必要があるという考え方も出てきている。関係人口としての増やしていく必要があるのではないか。しかしながら、地元の高校生がたくさん入学してくれるような大学になってくれることを期待したい。

○大学パンフレットについて

- 配布いただいたパンフレットはどれもよくできているものの、それぞれのパンフレットに重複している内容や白紙部分があり、余分な費用がかかっているため、例えば1冊に集約し、削減したコストで高校生用のパンフレットに充てられないか。
- 授業のレジュメや報告書はWeb化が進んでいる。福知山公立大学開学記念連続講演会報告書には議事録まで記載されているが、学生等は議事録まで読まないと推察するため、掲載内容を工夫してはどうか。

7 閉会

以上